

沼山峠休憩所旧トイレ前の斜面の帰化植物および 移入と扱われる在来植物 (駆除2年目)

黒沢 高秀¹⁾

1) 福島大学共生システム理工学類

キーワード

移入植物 帰化植物 生態系被害防止外来種リスト 生物多様性保全 沼山峠休憩所

要旨

沼山峠休憩所旧トイレ前の12 m×6 mほどの場所に、多種類の帰化植物や在来種で尾瀬への移入として扱われてきた植物が生育する植生を2019年8月21日に確認し、そのうちエゾノギシギシ、ヒメジョオン、フランスギクの全株を駆除した。2020年8月19日に確認したところ、エゾノギシギシとフランスギクは確認できなかったが、ヒメジョオンは6個体が確認された。生育していた帰化植物で生態系被害防止外来種リスト掲載植物の中から、昨年の駆除対象であったヒメジョオンおよび花が目立つセイヨウノコギリソウの駆除を行った。

1. はじめに

2019年8月21日に、沼山峠休憩所旧トイレ前の12 m×6 mほどの場所に、多種類の帰化植物や在来種で尾瀬への移入として扱われてきた植物が生育する植生を確認した(黒沢 2020)。その場所には47種類の植物が生育しており、そのうち13種類が帰化植物、6種類が尾瀬で移入として扱われる在来植物であった。全体の植被率は95%であったが、帰化植物の植被率は38%に達し、尾瀬で移入として扱われる在来植物の2%と合わせると、40%を占めていた。帰化植物のカモガヤとオニウシノケグサも高い被度で生育し、帰化植物のシロツメクサ、ナガハグサ、尾瀬で移入として扱われる在来植物のクサイなどの被度が比較的高かった。

これらの帰化植物のうち尾瀬ヶ原への侵入でたびたび問題となったエゾノギシギシとヒメジョオン、および花が目立つフランスギクの全株を2019年8月21日に駆除した(黒沢 2020)。駆除量はエゾノギシギシ開花株1, 乾燥重量1.2 g, ヒメジョオン開花株31, 乾燥重量15.9 g, フランスギク96開花株と多数の栄養株, 乾燥重量105.0 gであった。

2020年の調査で、昨年駆除した植物の状況を確認するとともに、残っていたヒメジョオンおよび花が目立つセイヨウノコギリソウの駆除を行った。

2. 方法

調査および駆除の試みは2020年8月19日になされた。場所は福島県南会津郡檜枝岐村沼山の沼山峠休憩所のトイレだった建物の前の斜面で、北緯36度56分53.3秒, 東経139度20分04.4秒付近, 標高約1695 mに位置している(黒沢 2020の図1, 2a参照)。調査地と付近は尾瀬国立公園第二種特別地域に含まれている。帰化植物や移入として扱われる在来植物が繁茂していた12 m×6 mの範囲で、昨年全株駆除したエゾノ

ギシギシ、ヒメジョオン、フランスギクの生育状況を確認した。

昨年駆除した植物で残存していたものと、調査地で生育が確認された帰化植物のうち駆除の優先度が高いと思われた1種類について駆除を試みた。駆除の際は地下部から根堀を用いて掘りとり、駆除した株数と駆除にかかった時間を記録した。駆除した植物は持ち帰り、生重量を計測した後に60℃で62時間乾燥後4日間放置したのちに乾燥重量を計測した。

3. 結果と考察

昨年に全株駆除をおこなったエゾノギシギシとフランスギクは確認できなかったが、ヒメジョオンは6開花株が確認された(表1)。この3種類はいずれも埋土種子集団を形成する、あるいは種子の寿命が長いことが明らかになっている(Hongo, 1994; Clements et al., 2004; 細木他, 2004)。エゾノギシギシとフランスギクは確認できなかったが、根絶されたかどうかは不明である。埋土種子が残っているおそれもあり、今後もモニタリングを続ける必要がある。今年も確認されたヒメジョオン株は、昨年の駆除前に散布された種子、または埋土種子から発芽したものと考えられる。ヒメジョオンは、生態系被害防止外来種リスト掲載植物で、尾瀬では下田代丈堀南沢など湿原内に侵入し、駆除の努力にもかかわらず何年も生残して問題となった植物である(例えば、馬場・五十嵐, 1988)。簡単には駆除できない植物と考えられ、根絶のためには来年度以降も長期間継続的な抜き取りが必要と見込まれる。

昨年の駆除対象であったヒメジョオン、および生態系被害防止外来種リスト掲載植物ではないが花が目立つため景観への影響が大きいと思われるセイヨウノコギリソウの駆除を行った(表2)。ヒメジョオンは6開花株、セイヨウノコギリソウは16開花株と703栄養株が確認され、これらすべてを駆除した。かかった時間はヒメジョオンで2分・人、セイヨウノコギリソウで140分・人であった。ヒメジョオンでは地下部からの掘り取りは容易で簡易に駆除を完了したが(黒沢 2020)、株数の減少に伴い、昨年よりも短い時間で完了した。セイヨウノコギリソウでは地表付近に伸びる細長い地下茎を指で探りながら掘るのに多少手間がかかり、栄養株が多数であったこともあり、多くの時間がかかった。乾燥重量はヒメジョオンが3.8 g、セイヨウノコギリソウが226.2 gであった。

謝辞

新潟大学教育学部の鈴木朋弘氏に調査や駆除をお手伝いいただいた。お礼申し上げます。

引用文献

- 馬場篤・五十嵐徳三. 1988. 下田代湿原へ侵入した平地性植物. 尾瀬の保護と復元 (18) : 49-53.
- Clements, D. R., Cole, D. E., Darbyshire, S., King, J. & McClay, A. 2004. The biology of Canadian weeds. 128. *Leucanthemum vulgare* Lam. Canadian Journal of Plant Science 84: 343-363.
- Hongo, A. 1994. Longevity of buried seeds of three *Rumex* species over a fourteen-year period. Weed Research, Japan 39: 52-53.
- 細木大輔・米村惣太郎・亀山章. 2004. 関東の森林の土壌シードバンクにおける緑化材料としての利用可能性とその測定方法. 日本緑化工学会誌 29: 412-422.
- 黒沢高秀. 2020. 沼山峠休憩所旧トイレ前の斜面の帰化植物および移入と扱われる在来植物. 尾瀬の保護と復元 (印刷中) .

表 1. 福島県南会津郡桧枝岐村沼山峠休憩所のトイレだった建物前の斜面 (約 12 m×6 m) で確認され、2019年8月21日および2020年8月19日に駆除された植物.

和名	2019年8月21日						2020年8月19日					
	生育株数		駆除した株数	駆除にかかった時間・人	生重量 (g)	乾燥重量 (g)	生育株数		駆除した株数	駆除にかかった時間・人	生重量 (g)	乾燥重量 (g)
	開花株	栄養株					開花株	栄養株				
エゾノギシギシ	1	0	全株	1分0秒	4.3	1.2	0	0	-	-	0	0.0
ヒメジョオン	31	0	全株	5分0秒	60.5	15.9	6	0	全株	2分0秒	10.4	3.8
フランスギク	96	多数	全株	11分35秒	452.4	105.0	0	0	-	-	0	0.0

表 2. 福島県南会津郡桧枝岐村沼山峠休憩所のトイレだった建物前の斜面 (約 12 m×6 m) で確認され、2020年8月19日に駆除された植物.

和名	2019年8月21日					
	生育株数		駆除した株数	駆除にかかった時間・人	生重量 (g)	乾燥重量 (g)
開花株	栄養株					
ヒメジョオン	6	0	全株	2分0秒	10.4	3.8
セイヨウノコギリソウ	16	703	全株	140分0秒	452.4	105.0